市民共働で推進する幸せのまちづくり

福岡県福津市（2019年度選定）

1.地域の特徴と課題及び目標	福津市は、福岡都市圏にありながら豊かな自然環境に囲まれている。この環境を保護・保全するためには市民の関心向上と参画拡大が重要である。また、現在は人口増であっても全市一様ではなく、縁辺部の人口は減少傾向が認められる。そのため、空き家対策と多世代共生可能なまちづくりは必須である。さらに、20歳代の市外転出率を食い止め、生産年齢人口数を維持するために市内の就労場所確保も検討する必要がある。また、福津市のメジャーな観光スポットを生かし、これまでの通過型観光から脱却するためにも、持続可能な観光産業の振興に積極的に取り組む必要がある。	**2.関連するゴール**	
3.取組の概要 **(三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)**	福津市の強みである社会関係資本の豊かさ、恵まれた自然環境を生かし、多世代が共生するバランスの良い人口構造の実現や産業基盤を強化し、地域経済循環率を改善することで持続可能なまちづくりを目指す。また、この強みを維持するために多様な人財育成を軸として環境保全・経済成長・社会的包摂の三側面を調和させながら共働・共創のまちづくりプロジェクトが誕生するための組成支援を行う。		

4.自治体SDGs推進等に向けた取組

①月に一度発行される広報紙において、SDGsに関する市や市内企業等の取組み、市民活動についての情報を発信した。
②市内高校や市内事業所に市職員が出向き、SDGsや地域学習について講座を行った。
③市内事業所や市民活動団体を対象にSDGs宣言を募集し、HPや広報紙で活動を紹介した。
④市内大型商業施設において、SDGsをテーマとしたイベントを実施した。
⑤未来共創センター（愛称：キッカケラボ）において、市民活動の伴走支援やマッチング、市民参加型のワークショップや交流イベントを実施した。
⑥市民活動の担い手育成プログラム「場づくりファシリテーター実践塾（BA-School）」の第２期を実施し、全６回の講座を行った。

5.取組推進の工夫

まちづくりを実現可能、持続可能なものとし、SDGsの三側面を統合した新たな価値を生むためには各分野で活動する主体の連携が重要と考えている。そのため、未来共創センターでは様々な活動主体をつなぐこと（コーディネート、マッチング）に注力している。

6.取組成果

①広報紙で情報発信を行ったことで、広く市民に啓発する機会となった。
②市内高校における地域学習では、市職員による講座後、高校生が福津市の課題とその解決策について模索し、代表の11グループが市職員や市長の前で発表を行った。
③市内事業所や市民活動団体へSDGsを浸透させる機会となった。
④市内商業施設におけるイベントでは、市内小学校のSDGs学習の成果についての展示発表や市内企業や市民団体による取組の展示、ワークショップ等が行われた。
⑤未来共創センターにおいて、組織と組織をつなぐコーディネートが35件、その結果連携や共働に至った事例（マッチング）が11件あった。また、地域課題解決につながるプロジェクトの組成支援として4件の支援を行った。その他イベントや講座、相談を含めて未来共創センターの関係人口は4,585人であった。
⑥担い手育成プログラムには20代～50代の20名が参加した。参加者は仲間を増やす方法や人が集うコツを講座で学び、チームに分かれてプロジェクトを実践した。

7.今後の展開策

市内大型施設におけるイベントや市内高校での取組は引き続き令和６年度も行う。また、広報紙においては国連におけるSDGs採択10周年に向けて、市の活動だけではなくSDGsそのものの理解を浸透させるための発信を行う。
未来共創センターでは引き続き共働・共創のプロジェクトにつながるコーディネートやマッチング、イベントを実施する。また、場づくりファシリテーター実践塾の第３期を実施する。

8.他地域への展開状況（普及効果）	愛知県常滑市、愛知県清須市からの視察において、福津市のSDGs施策や未来共創センターの活動について発信。 福岡県芦屋町、福岡県遠賀町、長崎県佐世保市（宇久島）、福岡県那珂川市、福岡県篠栗町、福岡県宗像市、その他５団体から視察において未来共創センターの活動について発信。